

## 実験通じ経済学を学ぶ 金大 高校生が市場取引体験

売り手と買い手に分かれて価格交渉をする生徒たち＝金沢大で



実験を通じて経済学を学ぶ高校生対象のイベントが五日、金沢市の金沢大角間キャンパスであり、石川、富山の高校生ら三十二人が市場取引の体験などで大学の研究や経済学への理解を深めた。

小中高生に最先端の研究に触れてもらう日本学術振興会（東京）の事業「ひらめきときめきサイエンス」の一環で、金沢大の藤沢美恵子教授の研究室が企画した。京都産業大の小田宗兵衛教授と東海大の林良平特任講師が経済学の奥深さを紹介した。

生徒たちは小田教授の指導で、タケノコ農家（売り手）と総菜屋（買い手）に分かれて取引をする「オーラルピットマーケット」と呼ばれる実験に挑戦。少しでも利益が出るように取引相手を探し、「もう少し上に」などと口頭での価格交渉を重ねた。

実験後は小田教授に成立した価格から見える需要と供給の関係を教わった。

経済学部を志望する金沢高三年の守田建杜（けんと）さんは「経済学にも実験があるのは驚きで、面白そう」と大学での勉強に思いを巡らせていた。（中平雄大）